

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型			
教科	国語	科目	現代の国語	単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「現代の国語」 (数研出版)		補助教材等	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 準拠ワーク (数研出版) 級別漢字セミナー (浜島書店)			
科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
第 1 学期 中間 考查 まで		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「論理的ということ」</li> <li>・論理性とはどういうことか、なぜ論理が必要とされるのかについて、筆者の主張を理解する。</li> <li>・筆者の主張を理解し、論理的ではないコミュニケーションの具体的例を挙げ、論理的に言い換える。</li> <li>評論の読み方</li> <li>&lt;対比の構造&gt;</li> <li>○「水の東西」</li> <li>・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。</li> <li>・対比の構造に着目し読み進めることで、評論の読み方を知る。</li> <li>【ズームアップ】文化</li> <li>&lt;実用の文章&gt;</li> <li>○コミュニケーションの手段を考える</li> <li>・非言語コミュニケーションの要素や特徴を理解し、具体的事例を挙げる。</li> <li>・コミュニケーションのあり方についてクラスで考え、話し合う。</li> </ul>	知識 技能	定期 考查等		課題 やレポート	
			思考 判断 表現	定期 考查等		課題 やレポート	
			主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動		振り返りシート等	
第 1 学期 期末 考查 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;対比の構造&gt;</li> <li>○「攻撃」と「共存」</li> <li>・対比の構造に注意をして、筆者の主張を理解する。</li> <li>・筆者の考える現代社会の問題を理解した上で、「現代という時代」について、自分自身の問題として考察し、論拠とともに考えを述べる。</li> <li>&lt;一般論と主張&gt;</li> <li>○「ポスト・プライバシー」</li> <li>・筆者が論じる「アイデンティティ」のあり方の変容を理解する。</li> <li>・筆者の論を踏まえた上で、今日の社会が向かっている方向性について考える。</li> <li>【ズームアップ】情報とメディア</li> <li>&lt;実用の文章&gt;</li> <li>○目的に合わせて表現を工夫する</li> <li>・条例の本文とそれに基づくパンフレットのそれぞれの文体や表現上の特徴を理解する。</li> <li>・条例の前文をわかりやすく周知するためのパンフレットを作成し、相互批評する。</li> </ul>	知識 技能	定期 考查等		課題 やレポート		
		思考 判断 表現	定期 考查等		課題 やレポート		
		主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動		作品や課題		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	評価規準	◎	○	○			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</li> <li>・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。</li> <li>・推論の仕方を理解し使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</li> <li>・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って具体的に考えようとしている。</li> <li>・筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。</li> </ul>			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	<論理とレトリック> ○「コインは円形か」 ・筆者が述べるレトリックの意味を理解する。 ・「レトリック感覚」が必要とされる理由を考え、説明する。 <具体と抽象> ○「ものごとことば」 ・筆者が論じる「もの」と「ことば」の関係を的確に理解する。 ・筆者の主張を踏まえ、「ことば」についての自分の考えを深める。 【ズームアップ】どこにも蝶などいない <実用の文章> ○資料を分析して考えをまとめる ・資料の読み取りや分析の仕方を理解する。 ・分析内容から得られた自分の考えを他者が理解できるよう適切にまとめる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期 期末 考査 まで	<具体と抽象> ○「人と自然の共生とはどういうことか」 ・筆者の主張する「文化的共生」について理解する。 ・「人と自然の共生」とはどういうことかを考え、自分たちはどうあるべきかを考える。 【ズームアップ】環境問題のこれから <比較する> ○「政治的思考」 ・「政治的思考」において大切なことを的確に理解する。 ・「民主政治」の特徴を「独裁政治」と比較しながら的確に理解し、自分の考えを深める。 <実用の文章> ○根拠の妥当性を説明する ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	・目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ・目的や意図に応じて、実社会から適切に題材を決め、情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。	・筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。 ・筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について積極的に考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	
学年 末 考査 まで	<視野を広げる> ○「他者を理解すること」 ・筆者の考える「理解すること」の内容について正しく読み取る。 ・他者の理解において大切なことは何かを理解する。 【ズームアップ】自己と他者の理解とは <思考を深める> ○「時間と自由の関係について」 ・時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、要約する。 ・筆者の論を踏まえ、現代社会の問題点について考える。 【ズームアップ】近代と時間の関係 <実用の文章> ○文章の構成を工夫して提案する ・提示されている条件や情報を読み取り、話し合う。 ・読み取った内容をもとに企画書を書き、相互評価をもとに遂行する。 ○課題を発見し解決策を発表する ・課題全文体の内容を把握し、的確に要約する。 ・課題に関する自分のテーマを設定し、問題点や解決方法を考え、発表する。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
	課題やレポート				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・目的や場に応じて、実社会から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	・論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・課題資料が示す内容と身の回りの問題を積極的に関連付け、学習課題に沿って適切な解決策を考えようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型				
教科	国語	科目	言語文化		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「高等学校言語文化」 (数研出版)		補助教材等	「高等学校言語文化 準拠ワーク」 (数研出版) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店)				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深め、その担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや訓読の決まり、古典特有の表現について理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えながら、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作人の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。	・進んで古典特有の決まりや表現について理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。 ・進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考查 まで	〈古文〉 ・「児のそら寝」 (宇治拾遺物語) 古文を学ぶ者としての常識を押さえつつ、読解の基礎を学ぶ。 ・「検非違使忠明」 (宇治拾遺物語) 動作主の推察を行い、助動詞「けり」や「已然形+ば」の接続の仕方や訳し方などを理解する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期 期末 考查 まで	〈漢文〉 ・訓読の基礎 訓点を施された漢文を書き下し、漢文訓読の基礎力を養う。 ・再読文字、助字、置き字 再読文字や助字、置き字の特性を理解し、適切に訓読できる知識と技能を身に付ける。 ・「漁夫之利」 (戦国策) 否定の句法を押さえながら、本文の展開の面白さを味わう。  〈古文〉 ・「ある人、弓射ることを習ふに」 (徒然草) 助動詞「む」「べし」に留意し、自戒を含む展開を味わう。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期	評価 規 準	・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解できているか。 ・訓読の決まりを理解し、文章の内容を的確に読み取っているか。	・随筆や物語などの文章の種類を踏まえて、叙述内容を的確に捉えているか。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているか。	・和歌や随筆、格言や故事成語に触れ、古文や漢文の世界に進んで親しもうとしているか。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	〈古典から現代へ〉 ・「羅生門」 極限状態にある人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取る。 〈漢文〉 ・否定、疑問、反語の句法 漢文特有の否定、疑問、反語の句法を学び、読解する力を養う。 ・「管鮑之交」（十八史略） 交友を扱った本文を通して故事成語のもとになった逸話を学ぶ。 〈古文〉 ・「ありがたきもの」（枕草子） 類聚的章段を読み、お題と列挙の構造を把握して内容を理解する。 ・助詞			知識・技能	定期考査等
					課題やノート
				小テスト等	
第2学期 期末 考查まで	〈漢文〉 ・漢詩の形式 近体詩の種類と特徴を理解し、押印や対句などの事項を押さえる。 ・「静夜思」李白 ・「月夜」杜甫 唐代を代表する詩人の詩を、漢詩特有の修辞法を押さえつつ、情景を思い浮かべながら味わう。 〈古文〉 ・「祇園精舎」（平家物語） 和漢混交文の文体を味わいながら読み進める。			知識・技能	定期考査等
					課題やノート
				小テスト等	
第2学期	観点別評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第2学期	評価規準	・漢文の基本的な句法を理解し、その知識を活用して書き下しや現代語訳ができていたか。 ・漢詩の詩形や押韻、対句などについて理解できていたか。 ・文中にある文語助動詞などを判別し、辞書などを手がかりに適切に現代語訳できたか。	・漢詩の対句や押韻といった表現上の特徴を踏まえて作品を味わい、情景を思い描くことができたか。	・歴史物語の時代背景や、和漢混交文の音の響きを踏まえて作品を味わおうとしたか。	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
学年末 考查まで	〈漢文〉 ・論語 孔子の言行録に触れ、東アジアの思想・文化に大きな影響力をあたえた文章を漢文で味わう。 〈古文〉 ・「漂泊の思ひ」（おくのほそ道） 松尾芭蕉の俳諧紀行を読み、不易流行の思想や表現の奥深さに触れる。			知識・技能	定期考査等
					課題やノート
				小テスト等	
第3学期	観点別評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第3学期	評価規準	・日本を代表する俳人の紀行文を知り、その道程や作品について理解することができたか。 ・古代中国の思想の種類とその概要について理解を深めることができたか。	・構成に注目しながら作品に込められた思いを読み取り、作者が旅をどのようなものと捉えているかを解釈できたか。 ・古代中国の思想を踏まえ、自分のものの見方、考え方を豊かにできたか。	・日本各地の歌枕について興味をもち、芭蕉が訪ね歩いた風景を思い描こうとしたか。 ・古代中国の思想を自分や現代日本の道徳観などに結びつけて解釈しようとしたか。	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等

※「◎」特に重視する観点

# 令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	3年	学科	商業科	類型	共通			
教科	地理歴史	科目	地理総合		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「わたしたちの新地理総合 世界から日本へ」 (山川出版) 「新詳高等地図」 (帝国書院)		補助教材等	「新編フォトグラフィア地理図説」 (東京法令出版社) 「地理総合演習ノート」 (啓隆社)				
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ・技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて、考察、構想する力を養う。	・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。				
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
第1学期 中間 考査まで	第1章 地図とGISの活用 第1節 球面上の世界 ・球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。 第2節 国家の領域と領土問題 ・国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響についても考察する。 第3節 国内や国家間の結びつき ・国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。 ・人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動を理解する。 第4節 日常生活のさまざまな地図 ・身の回りの地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。 ・紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	観 点			定期考査等
								課題やレポート
								授業での活動
第1学期 期末 考査まで	第2章 生活文化の多様性と国際理解 第1節 自然環境と生活文化 ・地球上の起伏の分布とプレートテクトニクスにもとづくプレートの境界との関連について考察する。 ・河川がつくる地形や海岸部の地形と人々の暮らしを考察する。 ・大気が循環する仕組みを捉え、日射・地形分布・海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。 ・世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 第2節 産業の発展と生活文化 ・世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。 ・アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を考察する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	観 点			定期考査等
								課題やレポート
								授業での活動
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	観 点			定期考査等
								課題やレポート
								授業での活動
第1学期	評価規準	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことを理解している。	・世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因など多面的・多角的に考察し、表現している。	・日本の位置や領域をめぐる問題について、主体的に追究し関心を深めている。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	第2章 生活文化の多様性と国際理解 第3節 言語・宗教と生活文化 ・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。 ・世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について考察する。 第4節 グローバル化の進展と生活文化 ・EUの統合による産業や生活文化への影響、経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。 ・アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりを考察する。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				授業での活動	
第2学期 期末 考查まで	第3章 地球的課題と国際協力 第1節 人口・食料問題 ・人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。 第2節 居住・都市問題 ・都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取り、人口集中による都市問題を写真などから判読する。 第3節 資源・エネルギー問題 ・エネルギー資源の変化を主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、消費における地域格差などの諸課題を読み取る。 第4節 地球環境問題 ・地球規模の環境問題を構造的に理解し、解決策を考察する。 ・環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				授業での活動	
第2学期	観点別評価 知識・技能 ◎ 思考・判断・表現 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○			思考 判断 表現	定期考査等
					課題やレポート
				授業での活動	
学年末 考查まで	第4章 生活圏の諸課題 第1節 自然環境と防災 ・日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。 ・日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することから、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。 第2節 持続可能な地域づくり ・新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身に付ける。 ・景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を踏まえて、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、その解決策を考察する。			主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート
					授業での活動
				振り返りシート等	
第3学期	観点別評価 知識・技能 ◎ 思考・判断・表現 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○			主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	
第3学期	観点別評価 知識・技能 ◎ 思考・判断・表現 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				授業での活動	
第3学期	観点別評価 知識・技能 ◎ 思考・判断・表現 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○			思考 判断 表現	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	
第3学期	観点別評価 知識・技能 ◎ 思考・判断・表現 ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○			主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型				
教科	地理歴史	科目	歴史総合		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	詳述歴史総合新訂版 (実教出版)		補助教材等	詳述歴史総合新訂版マイノート (実教出版) 明解歴史総合図説シンフォニア五訂 版 (帝国書院)				
科目の目標	○世界とそこにおける日本を、広く相互的な視野でとらえることができる。 ○資料を活用しながら、歴史の学び方や基礎的な概念を習得することができる。 ○現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を考察し、表現することができる。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	世界とそこにおける日本を、相互的な視点から幅広く理解し、また諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	近代以降の日本と世界について、時期や推移を比較し、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。	近代以降の日本と世界について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の中で生きる日本人としての自覚を持つとともに、他国の文化を尊重することの大切さを認め、課題を主体的に探究しようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第 1 学期 中間 考查まで	第 1 章 近代化への胎動 ・18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第 2 章 欧米の市民革命と国民国家の形成 ・産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
第 1 学期 期末 考查まで	第 3 章 アジアの変容と日本の近代化 ・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	観点別 評価	◎	○	○				
	評価規準	・近代の日本と世界について、歴史的環境と文化の形成などその特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・産業革命や国民国家の形成といった国際関係の変化、社会の変化などに着目して、近代社会の特質について多面的・多角的に考察している。	・近代の日本と世界について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価		
			観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	<p>第4章 帝国主義の時代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul> <p>第5章 第一次世界大戦と大衆社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解させる。</li> <li>・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察、表現させる。</li> </ul>		知識 技能	定期考查等	
				課題やレポート	
			授業での活動		
第2学期 期末 考查まで	<p>第6章 経済危機と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>		知識 ・ 技能	定期考查等	
				課題やレポート	
			授業での活動		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
				評価 規 準	・帝国主義と二度の世界大戦、それによる国際関係の変化などについて、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。
				・二度の世界大戦に至る国際関係の推移や変化に着目して、世界とその中の日本の変容について多面的・多角的に考察している。	
学年 末 考查まで	<p>第7章 冷戦と脱植民地化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現させる。</li> </ul> <p>第8章 多極化する世界、第9章 グローバル化と現代世界</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>		知識 技能	定期考查等	
				課題やレポート	
			授業での活動		
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
				評価 規 準	・現代にいたる日本と世界の諸地域について、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。
				・冷戦期の世界の諸相や各国の動向に着目して、現代社会の成立と展開について多面的・多角的に考察している。	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
				評価 規 準	・現代の私たちを取り巻く諸課題について、歴史的な視点から主体的に、かつ他者と協働しながら多面的・多角的に考察しようとしている。
				・現代の私たちを取り巻く諸課題について、歴史的な視点から主体的に、かつ他者と協働しながら多面的・多角的に考察しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	商業科	類型				
教科	公民	科目	公共	単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書	「詳述公共 新訂版」(実教出版)		補助教材等	フォーラム公共 (東京法令出版)				
科目の目標	現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解するとともに、必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけさせ、現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を養うことで、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めさせる。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解している。</li> <li>必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。</li> </ul>				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第1学期 中間 考查まで	第1編 公共の扉 1 社会を作る私たち ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 2 人間としてよく生きる ・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料からよりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付け、多面的・多角的に考察し、表現する。			知識 技能	定期考查等			
					思考 判断 表現	課題やレポート		
						授業での活動		
振り返りシート等								
第1学期 期末 考查まで	3 民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解し、実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 4 民主国家における基本原理 ・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解する。 ・公共的な空間における基本的原理の一つである人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について考察し、理解する。			知識 ・ 技能	定期考查等			
					思考 判断 表現	課題やレポート		
						授業での活動		
振り返りシート等								
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取 組む態度 ○	定期考查等			
					課題やレポート			
					授業での活動			
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティについて理解している。</li> <li>世界の思想や民主社会の倫理、民主国家の原理について理解している。</li> <li>人間としての在り方生き方に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期に生きる自己形成の課題について考えている。</li> <li>人間としての在り方生き方について考えている。</li> <li>個人と社会との関わりについて多面的に考察し表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。</li> </ul>					

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法の基本原理を理解し、国際平和と人権の尊重について、考察する。 2 日本の政治機構と政治参加 ・わが国の三権分立と国会の地位、国会の役割と権限 国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題 住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考査まで	3 現代の経済社会 ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を考察する。 4 経済活動のあり方と国民福祉 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
		評価規 準	・わが国の憲法や政治機構について理解している。 ・実際の政治事象や現代の経済社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・人権や実際の政治事象についての課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。
学年 末 考査まで	5 国際政治の動向と課題 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 6 国際経済の動向と課題 ・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制 国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
		評価規 準	・国際法や国際経済の仕組みなどについて理解している。 ・現代の国際社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・現代の国際社会における課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の国際経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・国際社会に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型					
教科	数学	科目	数学 I	単位	3	必修 選択	必修		
使用教科書	「最新 数学 I」(数研出版)		補助教材等	パラルノート数学 I (数研出版)					
科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けさせ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培うことで、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用しようとする態度を育てる。								
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	重点	◎	○	○					
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察して表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。</li> </ul>					
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価					
				観 点	評価の手段				
第 1 学期 中間 考査まで	1 章 数と式 1 節 数と式 ・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を身に付ける。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
					課題やレポート				
第 1 学期 期末 考査まで	2 節 実数 ・中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようになる。 3 節 1次不等式 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を身に付ける。 2 章 集合と命題 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようになる。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
					課題やレポート				
							定期考査等		
							課題やレポート		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	定期考査等				
					課題やレポート				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>展開の公式や因数分解の公式を利用できる。</li> <li>根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。</li> <li>不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。</li> <li>空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式や因数分解の公式が適用できるようにすることができる。</li> <li>身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決しようとしている。</li> <li>命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとしている。</li> <li>直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとしている。</li> </ul>					

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ ・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようになる。 2節 2次方程式と2次不等式 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようになる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
	授業での活動				
第2学期 期末 考査まで	4章 図形と計量 1節 三角比 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようになる。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を身に付ける。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
	授業での活動				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方完成を利用して、2次関数のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。</li> <li>2次関数を平方完成して、最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>2次不等式を解くことができる。</li> <li>三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。</li> <li>定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。</li> <li>2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。</li> <li>既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとしている。</li> <li>日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとしている。</li> <li>2次不等式を解くときに、図を積極的に利用しようとしている。</li> </ul>	
学年 末 考査 まで	2節 正弦定理・余弦定理 ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを身に付ける。 5章 データの分析 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを身に付ける。 課題学習			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
	授業での活動				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。</li> <li>平均値や最頻値、中央値、範囲、四分位範囲の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。</li> <li>データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとしている。</li> <li>変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとしている。</li> </ul>	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	1 年	学科	商業科	類型			
教科	理科	科目	科学と人間生活	単位	2	必修	必修
使用教科書	「科学と人間生活」 (実教出版)		補助教材等	アクセスノート 科学と人間生活 (実教出版)			
科目の目標	・自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物、現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとしている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤として科学的に探究しようとしている。			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
第 1 学期 中間 考查まで	第1章 科学と技術の発展 第1節 科学と技術のはじまり ・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたこと、科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解する。 第2節 海 ・海洋の研究・調査の話題を通して、科学の各分野がかかわっていること、科学の研究が私たちの生活に生かされていることを理解する。 第3節 土 ・農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解する。 第2章 物質の科学 第2節 食品と衣料 ①衣食に係る様々な物質 ・食品や衣料を構成する物質の多くが高分子化合物であることに気づく。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	観 点		定期考査等
					評 価 の 手 段		課題やレポート
							授業での活動
第 1 学期 期末 考查まで	②食品に係る物質 ・ミネラル、ビタミンについても触れる。糖類(炭水化物)の種類を説明し、糖類がどのようなものに含まれているか理解する。 ・生体内での代謝にも触れ、エネルギー源として重要であることに気づく。 ・タンパク質を構成するアミノ酸の構造と特徴を理解する。 ・酵素の種類と働きを日常生活と関連付けて理解する。 ・酵素がタンパク質でできていることから、どのような特徴を持っているかに触れる。 ③衣料に係る物質 ・天然の繊維とその特徴を生かして人工的につくられた化学繊維があることを説明し、その分類を理解する。 ・合成繊維(化学繊維)は重合によってつくられたものであり、いろいろな種類が存在することを理解する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	観 点		定期考査等
					評 価 の 手 段		課題やレポート
							授業での活動
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	観 点		定期考査等
					評 価 の 手 段		課題やレポート
							授業での活動
第 1 学期	評価規準	・科学技術が様々な努力によって築き上げられ、生活を豊かにしてきたが、使い方を誤ると人類の将来に大きな影響を及ぼすことを理解している。 ・食品や繊維を構成する物質の構造がその性質と関係していることを理解している。	・天然にある素材と人工的に作り出した素材が日常生活の中でどのように使われているかを考え、表現することができる。	・科学の発展の歴史に興味をもち、私たちの生活を支える技術が科学とどのように関わり、発展してきたかを探究しようとしている。 ・身近にある食品や繊維に関して、簡単にできる観察や実験の技能を習得し、その結果を日常生活に生かすようにしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第2学期 中間 考查まで	第3章 生命の科学 第2節 微生物とその利用 ①いろいろな微生物 ・空気中の微生物の培養や水中の微生物の観察を通じ、身近にいろいろな微生物がいることに気づかせる。 ・地球上のあらゆる場所に微生物がいることを学習させる。また、微生物の種類について理解する。 ②微生物の利用 ・発酵や腐敗などの現象を通じ、微生物が身近にいることを理解する。 ③生態系での微生物 ・空気中の微生物が有機化合物を分解することを理解する。 ・生態系での物質循環に微生物がどのように関わっているかを学習する。			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				授業での活動			
第2学期 期末 考查まで	第4章 光と熱の科学 第1節 熱の性質とその利用 ①熱 ・温度は物に関わる量であることを物体をつくる分子・原子の熱運動と結びつけて理解する。 ・熱は物体が持つ量ではなく、温度の異なる物体どうしが接触した時に移動する量であること、および熱平衡について理解する。 ②熱の発生 ・物質の熱容量・比熱、熱量の保存について理解させ、身の回りにある物質がこれらと関係し、利用されていることに気付く。 ③エネルギーの変換と利用 ・エネルギー変換を利用する技術が様々な分野で発展していることを学習する。 ・熱機関はその効率が高められ、発展してきたが、永久機関は不可能であることを理解する。			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○			
				評価 規 準	・様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。 ・エネルギーが変換し、保存することを理解できる。また、その性質を利用して科学技術が発展したことを理解している。	・微生物の発見など歴史的な事項についての学習を通じ、科学的な思考をもとに考察し、表現することができる。 ・身の回りに熱に関わる現象を見出し、熱の性質から科学的に思考し、熱を有効利用できるような判断ができる。	・微生物と人間生活の関わりについて関心を持ち、探究しようとしている。 ・エネルギーに関する科学技術に関心を持ち、科学的な見方・考え方を身につけようとしている。
学年 末 考 査 ま で	第5章 宇宙や地球の科学 第2節 身近な自然景観と自然災害 ①身近な景観のなりたち ・身近な地域の自然景観を、流水の作用など大地を平坦にする変化、および火山活動など大地の起伏を大きくする変化と関連付けて学習する。 ②地球内部のエネルギー ・火山や地震などのメカニズムを理解する。 ③自然の恵みと自然災害 ・将来起こる可能性のある自然災害を理解し、防災、減災を意識する。 第6章 これからの科学と人間生活 ・科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究する。			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				授業での活動			
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○			
				評価 規 準	・身近な自然景観の成因やな日本列島の成り立ちを理解している。 ・課題研究から明らかにされた結果や関連する事項が理解できる。	・自然災害の起きる原因を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。 ・科学に関わる課題について具体例をあげ、今後の科学研究のあり方について考え、それを表現することができる。	・身近な自然景観や自然災害に関心を持ち、探究しようとしている。 ・科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心を持ち、具体例を考え、研究しようとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	商業科	類型					
教科	理科	科目	生物基礎		単位	2	必修 選択	選択	
使用教科書	「新編 生物基礎」 (東京書籍)		補助教材等	リードLightノート 生物基礎 (数研出版)					
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。								
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	重点	○	◎	○					
	評価規準	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身につける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。					
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価					
				観 点	評価の手段				
第1学期 中間 考查 まで	第1編 生物の特徴 第1章 生物の多様性と共通性 ・生物を比較し、生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。  第2章 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。	知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等	
					定期考查等	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等
					定期考查等	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等
第1学期 期末 考查 まで	第2編 遺伝子とその働き 第1章 遺伝情報とDNA ・DNAの構造や性質、その関係性、遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。  第2章 遺伝情報とタンパク質の合成 ・生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。	知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等	
					定期考查等	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等
					定期考查等	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	評価規準	◎	○	○					
		・真核細胞の構造について理解している。 ・ATPの構造やリン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解している。 ・親の形質が子に引き継がれる遺伝現象はDNAによって担われていることを理解している。	・観察結果を比較し、生物のもつ共通性について説明できる。 ・ここまで学習した用語を使って、生物の多様性と共通性を説明できる。 ・酵素の基質特異性について調べ、そのしくみを説明できる。	・私たちの体で働く酵素について具体例を調べようとしている。 ・食品の栄養成分表示を見て、身の回りでタンパク質を多く含む食品を調べようとしている。					

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価					
				観 点	評価の手段				
第2学期 中間 考査まで	第3編 ヒトの体の調節 第1章 ヒトの体を調節するしくみ ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、それが調節ができなくなったときに発症する疾患について理解する。			知識 技能	課題やレポート				
					授業での活動				
					振り返りシート等				
第2学期 期末 考査まで	第2章 免疫のはたらき ・免疫の全体的な仕組み、および体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・免疫のしくみを利用した病気の予防や、免疫に関わる疾患について理解させる。  第4編 生物の多様性と生態系 第1章 植生と遷移 ・気温や降水量の違いから多くのバイオームが成立し、遷移の結果、植生が変化することを理解させる。 ・生物は環境から影響を受けつつ存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在すると理解させる。 ・植生はその周囲の環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。			知識 ・ 技能	課題やレポート				
					授業での活動				
					振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深めようとしている。 ・植生について理解した内容をもとに、樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだそうとしている。				
						第2学期	評価 規 準	・ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解している。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解している。	・体液の割合について調べ、人体の構造や各器官の役割について説明できる。 ・乳幼児期に接種するワクチンと感染症について調べ、説明できる。
授業での活動									
振り返りシート等									
学年 末 考査 まで	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・生態系とその保全について整理し、その資料を読み取ろうとしている。 ・身近な食料品の生産や流通について、生態系保全の視点から捉え自らの意見を説明しようとしている。				
						第3学期	評価 規 準	・ビットフォールトラップから生態系における種の多様性を見いだして理解している。 ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解している。	・環境アセスメントの実施が始まった時期を調べ、環境問題への関心が高まった背景について説明できる。 ・例として琵琶湖における外来生物の影響をあげ、人間による生物の導入が生態系に与える影響を説明できる。
授業での活動									
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・生態系とその保全について整理し、その資料を読み取ろうとしている。 ・身近な食料品の生産や流通について、生態系保全の視点から捉え自らの意見を説明しようとしている。				
						第3学期	評価 規 準	・ビットフォールトラップから生態系における種の多様性を見いだして理解している。 ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解している。	・環境アセスメントの実施が始まった時期を調べ、環境問題への関心が高まった背景について説明できる。 ・例として琵琶湖における外来生物の影響をあげ、人間による生物の導入が生態系に与える影響を説明できる。
授業での活動									

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	商業科	類型						
教科	理科	科目	地学基礎	単位	2	必修 選択	選択			
使用教科書	「高等学校地学基礎」 (啓林館)		補助教材等	地学基礎の基本マスター新訂版 (啓林館)						
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。									
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	重点	◎	○	○						
	評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通し、情報収集、仮説や実験の設定と観察、データの分析・解釈、推論など探究方法を習得するとともに、レポート作成や発表を通して、理解した内容を表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。自然環境の保全に寄与しようとしている。						
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価						
				観 点	評 価 の 手 段					
第1学期 中間 考查 まで	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第1節 地球の外観 ・地球の形の特徴と大きさを観察や測定結果を通して見だし、厳密には球でないことを理解させる。 第2節 地球の内部構造 ・地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見いださせ、層構造について理解させるとともに地球内部の状態を理解させる。 第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地球の活動 ・プレート分布と運動及びそれに伴う大地形の形成について理解させる。 第2節 地震 ・火山活動や地震に関する資料から火山活動と地震発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させるとともにプレート境界における火山の活動や分布などの特徴を理解させる。			知識 技能	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等		
					思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等	
						主体的に 学習に取 組む態度	課題やレポート			授業での活動
第1学期 期末 考查 まで	第3節 火山活動と火成岩の形成 ・火山活動と火成岩の形成の仕組みについて理解させるとともに岩石の組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいた分類ができるようにする。 第2部 大気と海洋 第1章 大気と海洋 第1節 大気圏 ・気圧や気温の鉛直方向の変化について、大気の特徴を理解させるとともに、気圧や気温が高度とともに変化し、対流圏成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されることを理解させる。 第2節 水と気象 ・水の循環と対流圏の気象について理解させる。 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第1節 地球のエネルギー収支 ・地球の熱収支について理解させる。			知識 ・ 技能	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等		
					思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等	
						主体的に 学習に取 組む態度	課題やレポート			授業での活動
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	評価規準	プレートの運動や境界について理解するとともに、プレート運動によって大地形が形成されることを理解している。 ・砂や火山灰の観察から鉱物を識別し、火成岩を組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類できる。 ・大気の層構造について理解し、各層の特徴や観測される現象について説明することができる。	・地殻を構成する岩石の特徴から、地球内部の密度や層構造について説明できる。 ・地震と火山の分布がプレート境界に対応することを見だし、プレートの運動によって地震や火山活動が起こることを説明できる。	・地球の形や大きさを調べるにあたり、過去の人々がとった方法や、地球の実際の形や大きさについて関心を持って学習しようとしている。						

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査 まで	第2節 大気の大循環 ・大気の大循環と地球規模の熱の輸送について理解させるとともに、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。 第3節 海水の循環 ・海水の運動と地球の熱の輸送について理解させる。 第3章 日本の天気 第1節 日本の位置 第2節 冬から春の天気 第3節 夏から秋の天気 ・日本の気象に影響を与える偏西風や大陸と海の分布について理解させる 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生 第2節 太陽系の誕生 ・宇宙と太陽系の誕生、太陽系の天体の特徴について理解させる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等		
			思考 判断 表現		課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
第2学期 期末 考査 まで	第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代 ・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。 ・古生物の変遷と地質時代の区分、地球環境の移り変わりについて理解させるとともに、地層や化石の観察をとおして古生物の変遷を理解させる。 ・地球環境の変化について、大気の変化と生命活動が相互に関わりながら地球環境が変化してきたことを理解させる。 第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること 第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方 ・化石と地層の対比について理解させる。	知識 ・ 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等		
			思考 判断 表現		課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・宇宙誕生について、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の晴れ上がるまでの過程を理解している。 ・地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。	・地質構造の観察から、当時の環境や地殻変動を推定することができる。・化石の観察結果から古生物の特徴を考察することができる。	・気温や気圧が高度とともに変化し、大気に層構造があることに興味を持ち、意欲的に学習しようとしている。 ・地形や地層、化石について意欲的に観察や実験を行い、それらが作られた環境や原因を学ぶことを通して、地球の歴史とその特徴を説明しようとしている。		
学年 末 考査 まで	第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類 第2節 地震災害・火山災害 第3節 気象災害 第4節 災害と社会 第5節 人間社会と地球環境の変化 ・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解させる。 ・日本における自然環境の特徴を理解させ、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ばせる。 ・地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づいて、地域の自然災害の特徴を理解させる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等		
			思考 判断 表現		課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。	・自然災害の原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。・地球環境に影響を及ぼしている人間活動について考察するとともに、現在の状況が続くことによる将来への影響について総合的に判断することができる。	・自然災害の起きる状況を理解し、災害リスクを減らすための科学的な見方・考え方を身につけようとしている。 ・地球規模の自然環境やそこで起きている環境変化について関心を持って学習しようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型			
教科	保健体育	科目	体育	単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)			
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のため他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かにすることができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、運動に親しもうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考查まで	<b>体づくり運動</b> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てて取り組ませる。  <b>陸上競技</b> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけさせる。			知識 技能	授業での活動		
					発問に対する応答		
					実技テスト等		
第 1 学期 期末 考查まで	<b>球技</b> ア. ゴール型 サッカー イ. ネット型 バレーボール ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法を理解するとともに作戦委応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できる。攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えさせる。  <b>体育理論</b> ①スポーツの始まりと変遷 スポーツの始まりについて知り、なぜスポーツが世界中に広まったのかを理解させる。 ②文化としてのスポーツ 多様ななかかわり方によるスポーツ文化の変容について例をあげて説明させる。			思考 判断 表現	授業での活動		
					発問に対する応答		
					授業に対する態度		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動		
					発問に対する応答		
					授業に対する態度		
第 1 学期	評価 規準	・運動種目のルール、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合や発表の仕方などについて理解している。 ・運動種目の固有の技能や動き、演技について自己の能力に応じた目標設定を安定して行うことができる。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するために自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・各種目に主体的に取り組むとともに、良いプレーや、良い演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしようとしている。			



令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	商業科	類型			
教科	保健体育	科目	体育	単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)			
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	・運動の多様性や体力の必要性を理解している。 ・必要となる技能を身につけている。	・課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。	・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 ・健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第1学期 中間 考査 まで	<b>体づくり運動</b> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。  <b>陸上競技</b> ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	授業での活動		
					実技テスト等		
					課題やレポート		
第1学期 期末 考査 まで	<b>陸上競技</b> ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道(柔道・剣道)</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル イ.ネット型：バレーボール ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ①スポーツにおける技能と体力 技術と技能の違いについて説明できる。 ②スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程を理解し、各段階に応じた練習方法を考えることができるようにする。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	授業での活動		
					実技テスト等		
					課題やレポート		
第1学期	観点別評価	◎	○	○	授業での活動		
					実技テスト等		
					課題やレポート		
第1学期	評価規準	・体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第2学期 中間 考査 まで	<b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道（柔道・剣道）</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、バドミントン ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。			知識 技能	授業での活動		
					実技テスト等		
				課題やレポート			
第2学期 期 末 考査 まで	<b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道（柔道・剣道）</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、卓球 ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ③技能の上達過程と練習 体の動きの仕組みについて説明できるようにする。 ④効果的な動きのメカニズム 体力と技能の関係を理解し、それらの高め方を説明できるようにする。			知識 ・ 技能	授業での活動		
					実技テスト等		
				課題やレポート			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		
						評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。
							・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。
・学年末考査まで							
学年 末 考査 まで	<b>球技</b> ア.ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ.ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ⑤体力トレーニング ・体力の構成要素について理解し、自己の課題にあったトレーニング方法、回数、強度を考慮することができるようにする。 ⑥運動やスポーツでの安全の確保 ・運動によるけがや病気の予防方法を説明できるようにする。			知識 技能	授業での活動		
					実技テスト等		
				課題やレポート			
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		
						評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。
							・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	3年	学科	商業科	類型				
教科	保健体育	科目	体育		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)				
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の多様性や体力の必要性を理解している。</li> <li>必要となる技能を身につけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。</li> <li>健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。</li> </ul>		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観点	評価の手段		
第1学期 中間 考査 まで	<b>体づくり運動</b> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。  <b>陸上競技</b> ・多様な楽しさと喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、主体的に取り組み、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能	授業での活動		実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート		振り返りシート等		
				授業での活動		実技テスト等		
課題やレポート		振り返りシート等						
主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等		課題やレポート		授業での活動			
	課題やレポート		授業での活動		振り返りシート等			
	授業での活動		振り返りシート等					
第1学期 期末 考査 まで	<b>陸上競技</b> ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア. ゴール型：サッカー イ. ネット型：バレーボール ウ. ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ①生涯スポーツの見方・考え方：ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。 ②ライフスタイルに応じたスポーツ：「現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	知識 ・ 技能	授業での活動		実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート		実技テスト等		
				作品や課題		実技テスト等		
課題やレポート		授業での活動						
主体的に 学習に 取り組む 態度	授業での活動		振り返りシート等		実技テスト等			
	課題やレポート		授業での活動		課題やレポート			
	授業での活動		振り返りシート等					
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	評価規準	◎		○		○		
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。</li> <li>技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。</li> <li>各種目特有の技能を身につけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。</li> <li>自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。</li> <li>勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。</li> <li>健康・安全を確保しようとしている。</li> </ul>		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）	観点別評価	
		観 点	評価の手段



令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型			
教科	保健体育	科目	保健	単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)			
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考查まで	1. 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち さまざまな健康の考え方について知り、健康を成り立たせている要因について理解する。 ②私たちの健康のすがた 現在の日本の健康水準を知り、心の健康や高齢化が社会に与える影響など健康問題の変化について理解を深める。 ③生活習慣病の予防と回復 ヘルスプロモーションの考え方について理解し、生活習慣病の予防について社会や自他の課題を知り、よりよい課題解決に向けて考えを深める。 ④がんの原因と予防 がんの種類や原因について理解する。がんの一次予防、二次予防について理解し説明できる。 ⑤がんの治療と回復 がんのおもな治療法について知り、社会的な対策について学ぶ。			知識 技能	定期考查等		
					授業での活動		
				思考 判断 表現	授業での活動		
振り返りシート等							
第 1 学期 期末 考查まで	⑥運動と健康 運動の意義を学び、健康のための運動、将来にわたり運動を継続していくために必要なことを理解する。 ⑦食事と健康 健康の保持増進にとって、食事はとくに重要な要素であることから自身の課題を知り、自身に合った解決方法を思考し説明できる。 ⑧休養・睡眠と健康 休養の必要性を自覚し、よりよい休養・睡眠のあり方について説明できる。 ⑨喫煙と健康 たばこのない社会の実現には個人および社会全体での取り組みが重要であることを理解し、新たな解決方法を探究する。 ⑩飲酒と健康 飲酒による健康への短期的・長期的影響および飲酒による社会問題について理解を深める。			知識 ・ 技能	定期考查等		
					授業での活動		
				思考 判断 表現	授業での活動		
振り返りシート等							
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取り 組む態度 ○	主体的に学習に取り組む態度		
					◎		
					◎		
	評価規準	・運動や喫煙、飲酒などが健康にどのように作用するのかを理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	①薬物乱用と健康 薬物乱用が引き起こす心身への影響や社会問題について学び、絶対に許してはならないことを理解する。 ②精神疾患の特徴 現代社会における精神保健の課題を説明できる。 ③精神疾患の予防 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 ④精神疾患からの回復 精神疾患の適切な治療や回復のための、必要な社会環境について理解を深める。 ⑤現代の感染症 新興感染症と再興感染症が流行する要因を理解し、自身の感染予防について振り返り、課題解決の方法を学ぶ。 ⑥感染症の予防 感染症予防の3原則を理解するとともに、一人ひとりの適切な行動が、社会全体を感染症の流行から守ることにつながることを理解する。			知識 技能	定期考査等 授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第2学期 期末 考査 まで	⑦性感染症・エイズとその予防 性感染症およびエイズについて基本的知識を学び、予防対策について個人及び社会の両面から理解し説明できる。 ⑧健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 ⑨健康に関する環境づくり 社会環境が健康に与える影響について知り、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく社会づくりについて考えを深める。 <b>2. 安全な社会生活</b> ①事故の現状と発生要因 交通事故の現状と実態を知り、人的要因と環境要因が関連していることを学ぶ。 ②安全な社会の形成 交通事故防止のための安全な交通社会づくりを学ぶ。			知識 ・ 技能	定期考査等 授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・薬物や感染症などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	
学年 末 考査 まで	③交通における安全 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 ④応急手当と意義とその基本 応急手当の意義や基本的な手順のほか、緊急時の積極的な行動が人命救助につながることを理解する。 ⑤日常的な応急手当 これまでの学習の復習をしながら、さらに理解を深める。熱中症は適切な判断と応急手当、その予防を理解する。 ⑥心肺蘇生法 実習を通して正確な心肺蘇生法の習得をめざすとともに、その原理を理解する。			知識 技能	定期考査等 授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・事故に対する対応や応急処置などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	商業科	類型				
教科	保健体育	科目	保健		単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)				
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第1学期 中間 考查まで	<b>3. 生涯を通じる健康</b> ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康  ・思春期に起こる身体的変化や性意識、妊娠などについて理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。			知識 技能	定期考查等			
					授業での活動			
第1学期 期末 考查まで	⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康  ・避妊法や人工妊娠中絶、加齢に伴う心理的な変化や身体的な変化について理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取り 組む態度 ○	授業での活動	課題やレポート 振り返りシート等		
第1学期	評価規準	・妊娠や加齢に伴う身体的精神的变化などについて、理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活  ・労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解させる。  <b>4. 健康を支える環境づくり</b> ①大気汚濁と健康 ②水質汚濁、土壌汚染と健康  ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			授業での活動	振り返りシート等	
		思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等	
第2学期 期末 考査まで	③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性 ⑥食品衛生にかかわる活動  ・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準設定され、それに基づいて行われていることを理解させる。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解させる。	知識 ・ 技能	定期考査等	授業での活動	
			授業での活動	振り返りシート等	
		思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等	
第2学期	<b>観点別評価</b>  <b>評価規準</b>	知識・技能	◎	◎	
		思考・判断・表現	○	○	
		主体的に学習に取り組む態度	○	○	
学 年 末 考 査 ま で	⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加 ・生涯を通じて健康を保持増進するために、各医療機関や医薬品の活用方法について正しく理解させる。 ・我が国や世界で行われている健康課題に対する様々な保健活動や社会的対策、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりについて理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			授業での活動	振り返りシート等	
		思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等	
第3学期	<b>観点別評価</b>  <b>評価規準</b>	知識・技能	◎	◎	
		思考・判断・表現	○	○	
		主体的に学習に取り組む態度	○	○	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	商業科	類型			
教科	芸術	科目	音楽 I	単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)		補助教材等				
科目の目標	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組ませる。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観点	評価の手段		
第1学期 中間 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱 「翼をください」、「この道」 歌唱を通して、歌唱技能の基本を学び、音楽を味わって歌ったり聴いたりする。</li> <li>・楽典 「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」 基本的な音楽の理論を理解することで、歌唱曲や鑑賞曲にもより興味を示すことができる。ただ歌ったり聴いたりするだけではなく、基本からしっかりと理解し、それらを表現活動に生かす。</li> </ul>	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動 実技テスト等 小テスト		
					授業での活動 実技テスト等 小テスト		
					授業での活動 実技テスト等 課題やレポート		
第1学期 期末 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソルフェージュ 「リズムを正確に読む」、「メロディーを階名で歌う」 楽典で学習した内容を生かして、リズムを読んだりメロディーを歌ったりする練習をする。</li> <li>・鑑賞 「ボレロ」 オーケストラの構造について深く理解し、それぞれの楽器の特徴や奏法に関心を持つ。また、同じメロディーを繰り返し演奏する楽曲に凝らされた工夫を自ら見つけ出し、音楽の面白さを感じる。</li> </ul>	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動 小テスト 課題やレポート 振り返りシート等		
					授業での活動 小テスト 課題やレポート		
					授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
	評価規準	・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について理解している。 ・「ボレロ」の作曲家や曲が作曲された背景、曲調について理解している ・「翼をください」や「この道」をしっかりと音程で歌うことができる。	・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について学んだことを応用して考えている。 ・「翼をください」「この道」の歌詞の情景をイメージし、創意工夫を生かした表現をしようとしている。	・表現活動や鑑賞活動、楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 器楽 「リコーダー」 リコーダーを演奏することで奏法を身に付け、奏法によって音色や響き、表情等の違いが生み出されることを理解する。また、アンサンブルを通してハーモニーの美しさを感じる。</li> <li>・ 鑑賞 「トゥーランドット」 オペラの構造について理解し、音色や旋律、曲想とのかかわりに関心を持つ。また音楽を評価しながら、音楽のよさや美しさを感じ取り、深く味わって聴く。</li> </ul>	知識 ・ 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート		
			思考 判断 表現		授業での活動	課題やレポート 振り返りシート等
					主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期 期 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽典 「音階と階名」、「音程」 音階や音程の仕組みを理解することで、歌唱や鑑賞の際に生かすことができる。また、音楽の基礎を理解し、より学びを深めることができる。</li> <li>・ 歌唱 「0 sole mio」、「美女と野獣」 「0 sole mio」を通して、イタリア語の歌詞や発音を理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。また「美女と野獣」を通して、歌詞を内容や登場人物の心情などを理解して、ハーモニーを感じながら歌う。</li> </ul>	知識 ・ 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 小テスト		
			思考 判断 表現		授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 小テスト
					主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リコーダーの演奏技術や奏法を身に付けている。</li> <li>・ 「トゥーランドット」「0 sole mio」の作曲者や曲が作曲された背景、曲調について理解している。</li> <li>・ 「音階と階名」「音程」の仕組みを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リコーダーの演奏技術や奏法を身に付け、表現している。</li> <li>・ 「0 sole mio」「美女と野獣」の歌詞から背景をイメージして、自分なりに表現しようとしている。</li> <li>・ 「音階と階名」「音程」の仕組みを理解した後、応用して考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動や楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・ 音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。</li> </ul>		
学年 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創作 「旋律の雰囲気を変化させよう」 ある旋律に音を加えたり、リズムや拍子、調などを変えたりして、自分や他者の音楽を感じ取る。同時に記譜の仕方についても学び、正しい記譜ができるようにする。</li> <li>・ 日本の伝統音楽 日本にまつわるそれぞれの時代の様式や楽器の特徴について理解する。</li> <li>・ 歌唱 「蛍の光」 本曲が「蛍雪の功」のことわざを由来にしていることについて理解し、歌詞の意味を自ら考えながら理解する。また、卒業式での歌唱に挑む。</li> </ul>	知識 ・ 技能	授業での活動	課題やレポート 作品や課題		
			思考 判断 表現		授業での活動	課題やレポート 作品や課題
					主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「蛍の光」の歌について理解している。</li> <li>・ 日本の伝統音楽の様式や特徴について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「蛍の光」の歌詞の意味について自らの力で考えている。</li> <li>・ これまでに学んだことを踏まえて自ら創作活動に取り組み、自分の考えを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現活動や創作活動、鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・ 音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。</li> </ul>		

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	商業科	類型						
教科	芸術	科目	美術 I	単位	2	必修 選択	選択			
使用教科書	「美術 1」(光村図書)		補助教材等							
科目の目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めさせ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えさせ、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。									
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	重点	○	◎	○						
	評価規準	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。						
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価						
				観点	評価の手段					
第1学期 中間 考查まで	【表現】 絵画「想像した世界を描く」  ・自分のイメージに合った画材を選択し、ぼかし、にじみ、重ね塗りなどの技法を効果的に用いて、独特の空気感や質感を表現できる。 ・主題を際立たせるための構図(対比、反復、強調など)を理解し、画面の中に意図を持って配置できる。 ・日常の風景や経験をヒントに、自分なりの「想像の種」を見つけ、それを飛躍させてオリジナリティのある世界観を構築できる。 ・描きたいこと(メッセージや雰囲気)に合わせて、色調や形を意図的に変容させ、独自の表現を追求できる。 ・正解のない「想像」という領域に対し、試行錯誤を繰り返しながら、自分らしい表現を最後まで粘り強く追求しようとする。 ・鑑賞活動を通じ、友人の作品にある多様な想像力や表現の工夫を認め合い、表現の幅を広げようとする。			知識 技能	作品や課題 振り返りシート等 授業での活動	思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 課題やレポート	主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等 課題やレポート 授業での活動	
	第1学期 期末 考查まで	【鑑賞】 教養としての美術史①「原始美術からルネサンスまで」  ・紀元前の洞窟壁画からルネサンス期に至るまでの、西洋並びに東洋美術(日本を含む)作品を鑑賞し、それぞれの時代における表現技法やモチーフ、素材の違いを理解する。 ・人類文化の発展において美術が果たした役割について考察する。			知識 ・ 技能	課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 小テスト	思考 判断 表現	課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 小テスト	主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等 課題やレポート 授業での活動
					知識・技能	◎	主体的に学習に取り組む態度			
第1学期		評価規準	・造形の要素の働きを理解している。 ・意図に応じて絵筆や絵の具の特性を生かしている。 ・元となるモチーフの色彩にとらわれず造形を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから造形を再構成し、主題を生成している。 ・画用紙と絵の具の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・主体的に絵画表現の創造活動に取り組もうとしている。					

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	<b>【表現】デザイン「立体切り絵で作るランプシェード」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒い紙とトレーシングペーパーの組み合わせで立体切り絵によるランプシェードを作る題材である。</li> <li>・素材同士の接着は、テープのり、あるいはセロハンテープを用いるものとする。ただし、セロハンテープを用いる場合は鑑賞者から見えるところに貼ってはならない。このことにより鑑賞者の立場に立ったデザインを思考・判断・表現する力を育み、かつ、限られた技法で主題を表現する豊かな発想力を育てる。</li> <li>・余力のある者は作品に着色してもよい。その際は、バランスあるいは統一性の取れた色彩表現をすることで造形的なよさや美しさを追求する。</li> </ul>			知識 技能	作品や課題
					振り返りシート等
				授業での活動	
第2学期 期末 考査 まで	<b>【鑑賞】教養としての美術史②「バロック・ロココからモダンアートまで」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1600年代から1900年代前半までの芸術作品を概観し作品に現れた近代自我のめばえと世界認識の方法を理解する。</li> <li>・同時代の西洋美術と東洋美術（日本美術を含む）を比較し、表現手段の違いを理解することで、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考察し、見方や感じ方を深める。</li> </ul>			知識 ・ 技能	課題やレポート
					振り返りシート等
				授業での活動	
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	小テスト
					課題やレポート
					振り返りシート等
第2学期	評価 規 準	・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて素材の特性を生かしている。 ・限られた素材や技法の中で造形を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。	・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること考え、主題を生成している。 ・デザインの機能や効果、素材の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・主体的にデザインの創造活動に取り組もうとしている。	授業での活動
					小テスト
					課題やレポート
学年 末 考査 まで	<b>【表現】絵画「デッサン」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象を多角的に観察し、プロポーション（比率）やパースペクティブ（遠近感）を正しく把握する技能を身につける。</li> <li>・鉛筆の硬度や芯の角度による線の変化を理解し、対象の質感（硬い・柔らかい・光沢がある等）に応じた描き分けができる。</li> <li>・光源を意識し、明部・中間部・暗部・反射光・影の5つの要素を表現することで、画面の中に立体感を生み出すことができる。</li> <li>・対象を「物」として見るだけでなく、形や色の階調（グラデーション）として抽象的に捉える思考力を養う。</li> <li>・細部まで見逃さない観察眼を持ち、納得のいく形や質感が現れるまで、修正を恐れずに試行錯誤を繰り返そうとする。</li> <li>・描く前と後で、日常の見慣れた風景や物に対する解像度（見え方）が変化したこと喜びを見出す。</li> </ul>			知識 技能	作品や課題
					振り返りシート等
				授業での活動	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	課題やレポート
					振り返りシート等
					授業での活動
第3学期	評価 規 準	・造形の要素の働きを理解している。 ・意図に応じて画用紙や鉛筆の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから造形を再構成し、主題を生成している。 ・画用紙と鉛筆の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・主体的に絵画表現の創造活動に取り組もうとしている。	作品や課題
					振り返りシート等
					授業での活動

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	商業科	類型			
教科	芸術	科目	書道 I	単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	新編 書道 I (大修館)		補助教材等				
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を身につけさせる。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>書表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して、理解を深めている。</li> <li>書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能や知識を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫している。</li> <li>作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。</li> </ul>	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評 価 の 手 段		
第 1 学期 中間 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写から書道へ</li> <li>書写と書道の学習の違いを確認し、芸術科書道への関心・意欲を高める。</li> <li>漢字の書【楷書】</li> <li>唐の四大家の楷書</li> <li>唐の四大家による古典の臨書・鑑賞を通して、楷書の規範・典型を学ぶとともに、同じ書体の中での書風の違いとその多彩な美を感じ取ることで、表現力の基礎を養う。</li> </ul>			知識 技能	作品や課題		
					振り返りシート等		
				思考 判断 表現	作品や課題		
振り返りシート等							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	振り返りシート等						
第 1 学期 期末 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>北魏の楷書</li> <li>書風の多様性を知り、鑑賞・臨書することで、字形と用筆の特徴をつかむ。</li> <li>創作</li> <li>学習した楷書の書風を生かして意図に基づいて主体的に表現する。</li> </ul>			知識 ・ 技能	作品や課題		
					小テスト		
				思考 判断 表現	作品や課題		
振り返りシート等							
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等						
	授業での活動						
			振り返りシート等				
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</li> <li>古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や知識を身に付けている。</li> <li>古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能や知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</li> <li>意図に基づいた表現について構想し工夫している。</li> </ul>	主体的に漢字の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間考査まで	○篆刻 雅印制作 ・印の作品における役割や種類を知り、篆刻の用具・用材、手順について理解する。  ○漢字の書【行書】 「蘭亭序」「風信帖」臨書 ・鑑賞・臨書を通して、行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。			知識 技能	作品や課題
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第2学期期末考査まで	○仮名の書 仮名の成立と種類 ・日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解する。 平仮名の単体・連綿の練習 ・仮名の基本的な筆使いを学ぶ。 古筆鑑賞 ・「継色紙」「升色紙」「寸小庵色紙」を鑑賞し、伝統的な構成方法と古筆の美しさを味わい、書に対する感性を豊かにする。			知識 ・ 技能	作品や課題 小テスト
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能や知識を身に付け表している。 ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。	・書よさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	主体的に漢字や仮名の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
学年末考査まで	○漢字仮名交じりの書 ・自分の心に響いた言葉を素材に、漢字と仮名の調和を図りながら、古典を生かした表現や、現代に生きる表現について構想し工夫して創作する。 ・自分の作品と友達の作品を互いに鑑賞し、作品について根拠をもって批評出来るような思考力や表現力を身につける。			知識 技能	作品や課題
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・目的や用途に即した効果的な表現の技能や知識を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能や知識を身に付けている。	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。	主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	1年	学科	商業科	類型				
教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書	「All Aboard! English Communication I」 Revised (東京書籍)		補助教材等	「All Aboard! English Communication I」 Revised WORKBOOK				
科目の目標	日常的、身近な話題について、多くの支援を活用すれば、 ・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えたりすることができるようにする。 ・基本的な語句を用いて、気持ちなどを話して伝え合うやり取りをすることができるようにする。 ・基本的な語句や文を用いて、自分の考えを書いて伝えたり、発表したりできるようにする。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・基本的な語句を用いて、自分の考えや意見などを話して伝え合うやり取りができる技能を身に付けている。	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・日常的、身近な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりしようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第1学期 中間 考查 まで	Pre-Lesson1 My Name Is Ito Neko Pre-Lesson2 I like Junk Food 中学校での既習事項を用いて自己紹介をする。動詞や疑問文、否定文等の復習をする。  Lesson1 Breakfast around the World 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。世界の朝食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えや好み、その理由を簡単な英語を使って話したり書いたりして伝え合う。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	観 点			評価の手段
					定期考查等 課題やレポート 振り返りシート等	課題やレポート 定期考查等 授業での活動	振り返りシート等 授業での活動 課題やレポート 実技テスト等	
第1学期 期末 考查 まで	Lesson2 Australia's Cute Quokkas オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。オーストラリアに生息する珍しい野生動物に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりする。  Lesson3 Life with Spade 愛馬との生活について話す布施蒼依さんのインタビューを通して、人と動物の強いきずなについて学習する。出かける予定の場所とそこでするつもりなこと、自分ができることについて、助動詞can、willを用いて、情報や考えを書いたり話したりする。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	観 点			評価の手段
					定期考查等 課題やレポート 振り返りシート等	課題やレポート 定期考查等 授業での活動	振り返りシート等 授業での活動 課題やレポート 実技テスト等	
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	評価規準	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝える技能を身に付けている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう書いたり話したりしている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝えようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查 まで	<b>Lesson4</b> <b>A Miracle Mirror</b> 海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。ある場所に関して書かれた文章について、行ってみたい場所ややりたいことをto不定詞（to+動詞の原形）を用いて話したり書いたりする。また、相手の考えを聞き、理解する。  <b>Lesson 5</b> <b>A Dream Engine</b> ある工業高校のユニークな取り組みを紹介する記事を通して、将来の夢について考える。将来の夢や先週末に楽しんだことについて、動名詞（動詞の-ing形）を用いて、情報や考えなどを書いたり話したりする。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	
思考 判断 表現	課題やレポート				
	定期考査等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等				
	授業での活動				
	課題やレポート				
	実技テスト等				
第2学期 期末 考查 まで	<b>Reading1 Short Stories in English</b> 3つのショートストーリーを読み、それぞれの場面や心情を読み取ってユーモアを理解する。登場人物の気持ちを考えながらペアになって音読する。  <b>Lesson6</b> <b>A Funny Picture from the Edo Period</b> 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について読み、好きな絵の紹介を受け身（be動詞+過去分詞）を用いて伝え合う。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	
思考 判断 表現	課題やレポート				
	定期考査等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等				
	授業での活動				
	課題やレポート				
	実技テスト等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝える技能を身につけている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう書いたり理話したりしている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝えようとしている。	
学年 末 考查 まで	<b>Lesson7</b> <b>A Diary of Hope</b> アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。アンネ・フランクの生活と彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用し、関心のある人物についての自分の考えをまとめ、発表する。  <b>Lesson8</b> <b>A Door to a New Life</b> ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。現在完了形の表現を学んだ上でロボットカフェについて知る。人々の生活を豊かにするロボットのアイデアについて考え、簡単な英語を使って感想を述べる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				振り返りシート等	
思考 判断 表現	課題やレポート				
	定期考査等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等				
	授業での活動				
	課題やレポート				
	実技テスト等				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝える技能を身につけている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう書いたり理話したりしている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝えようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	商業科	類型			
教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	「All Aboard! English Communication I」 (東京書籍)		補助教材等				
科目の目標	日常的、身近な話題について、多くの支援を活用すれば、 ・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えたりすることができるようにする。 ・基本的な語句を用いて、気持ちなどを話して伝え合うやり取りをすることができるようにする。 ・基本的な語句や文を用いて、自分の考えを書いて伝えたり、発表したりできるようにする。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
観点別評価	評価規準	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・基本的な語句を用いて、自分の考えや意見などを話して伝え合うやり取りができる技能を身に付けている。	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・日常的、身近な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりしようとしている。			
	期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
第1学期 中間 期末 考査 まで	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution プラスチックごみによる環境汚染の問題に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしてプラスチックごみの問題について理解を深める。自分たちにできることについて自分の考えをまとめ、簡単な英語を使ってきたし話し合ったりする。  Communication2 道案内の場面においてよく使われる表現を用いて、英語で道案内をしたり、道順を尋ねたりする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度			
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度			
第1学期 期 末 考査 まで	Lesson 10 Pigs from across the Sea 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で理解を深め、簡単な英語を使って感想を述べる。  Reading2 The Wizard of Oz ・ドロシーと愛犬のトトが自分の家にたどりつくまでの冒険物語を読み、場面や登場人物の心情を読み取る。 ・主人公のドロシーを中心に、登場人物の気持ちを考えながら音読する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度			
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度			
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	評価規準	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝える技能を身に付けている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう書いたり話したりしている。	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝えようとしている。			

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	商業科	類型			
教科	家庭	科目	家庭総合	単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	新家庭総合 (実教出版)		補助教材等	生活学Navi 資料+成分表+ICT (実教出版) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) 学習ノート (実教出版)			
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	○	◎	○			
	評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観点	評価の手段		
第1学期 中間 考查まで	<p>家庭科の学び方、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭クラブ活動の一日家事労働体験を通して、自立・労働について理解する。</li> <li>ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。</li> </ul> <p>第1章 自分らしい生き方と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く。</li> </ul> <p>第6章 衣生活をつくる</p> <p>1人と衣服のかかわり、2衣服の素材の種類と特徴、3衣服の選択から管理まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。</li> <li>健康・快適・安全な生活を送る為に被服に施されている工夫について理解する。</li> <li>被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。</li> <li>手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。</li> </ul> <p>防災・減災について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自助・共助について自分事として捉え意識を高める。</li> </ul>			知識 技能	定期考査等		
					作品や課題		
					課題やレポート		
第1学期 期末 考查まで	<p>第6章 衣生活をつくる</p> <p>3衣服の選択から管理まで、6衣服をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。</li> <li>これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら目的に合った被服を製作する。</li> </ul> <p>第5章 食生活をつくる</p> <p>1人と食物のかかわり、2私たちの食生活、3栄養と食品のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。</li> <li>自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。</li> </ul> <p>ホームプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解する。</li> <li>自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。</li> </ul>			思考 判断 表現	定期考査等		
					作品や課題		
					課題やレポート		
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取 組む態 度	定期考査等		
					実技テスト等		
					作品や課題		
第1学期	評価 規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生、衣生活、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	ライフプラン、衣生活、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	主体的に 学習に取 組む態 度	作品や課題		
					課題やレポート		
					授業での活動		
					振り返りシート等		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 期末 考 査 ま で	ホームプロジェクト発表 ・ホームプロジェクトの発表を通して、自分の考えを人にわかりやすく伝える方法を学ぶ。 第5章 食生活をつくる 4食品の選び方と安全 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 第8章 消費行動を考える 1消費行動と意思決定、2消費生活の現状と課題、3消費者の権利と責任 ・自立した責任ある消費者としてよりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
			課題やレポート		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
			課題やレポート		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
			作品や課題		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等		
	作品や課題				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期 期 末 考 査 ま で	第5章 食生活をつくる 5食事計画と調理 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工により美味しさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。 第2章子どもとのかかわる 1子どもとは 2子どもの発達 3子どもの生活 4子どもとははぐくむ ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、保育実習などの子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。	知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
			作品や課題		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
			作品や課題		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
			作品や課題		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等		
	作品や課題				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期	観点別評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ◎	
	評価規準	生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、家族や保育、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	消費生活、環境、家族や保育、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
学年 末 考 査 ま で	第3章高齢者とのかかわる 第4章 社会とのかかわる 1高齢社会に生きる、2高齢者を知る、自立を支える 3共生社会を生きる・地域の防災力を高める ・超高齢社会の背景を理解し、高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たしつなげていけばよいか考えて実践しようとする。 ・防災・減災について、自助や共助について理解し、自分事として捉え、行動できるようになる。 第5章 食生活をつくる 5食事計画と調理その2 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工により美味しさが変化することを科学的に捉える。 ・調理実習（防災食）を通して、防災についての意識を高める。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行い、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。	知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
			課題やレポート		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
			課題やレポート		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
		知識 技能	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
			課題やレポート		
			授業での活動		
			振り返りシート等		
思考 判断 表現	定期考査等	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題		
	課題やレポート				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第3学期	観点別評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	人の一生、と家族・家庭及び福祉、食生活、環境の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	3年	学科	商業科	類型	共通						
教科	家庭	科目	家庭総合		単位	2	必修 選択	必修			
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)		補助教材等	生活学Navi 資料+成分表 (実教出版) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) 学習ノート (東京書籍)							
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>										
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度							
	重点	○	○	◎							
	評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。							
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価						
				観点	評価の手段						
第1学期 中間 考査 まで	<p>家庭総合を学ぶにあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一生活に生かそうーホームプロジェクト (HP) と学校家庭クラブ活動ー</li> <li>・家庭クラブ活動の一日家事労働体験を通して、自立・労働について理解する。</li> <li>・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。</li> <li>・一日家事労働体験 (GW中の課題) を通して、多様化する家族像・自立・労働などについて理解する。</li> </ul> <p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>3被服を管理する, 4被服を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した衣生活などこれまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら目的に合った被服を製作する。</li> <li>・家庭経営の立場から家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。</li> </ul> <p>第3章 子どもと共に育つ</p> <p>5 これからの保育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達と環境との関わりについて認識し、子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。</li> </ul> <p>防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・共助の在り方について、自分事として捉え、防災意識を高める。</li> </ul>			知識 技能	定期考査等	作品や課題			課題やレポート	授業での活動	
					思考 判断 表現	定期考査等	作品や課題			課題やレポート	授業での活動
						主体的に 学習に取 組む態度	作品や課題	課題やレポート			授業での活動
第1学期 期末 考査 まで	<p>第4章 超高齢社会を共に生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。</li> <li>・これからの超高齢社会の課題を理解し、高齢者の自立を支えるために、私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。</li> <li>・自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。</li> </ul> <p>第6章 食生活をつくる</p> <p>4 生涯の健康を見通した食事計画, 5 調理実習, 6 食生活の文化と知恵,</p> <p>7 これからの食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。配膳やマナーに関心を持つ。</li> <li>・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。</li> <li>・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康等食生活に関わる情報を適切に判断し広い視野で食生活について考える。</li> </ul> <p>ホームプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解する。</li> <li>・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。</li> </ul>			知識 技能			定期考査等	実技テスト等			作品や課題
					思考 判断 表現		定期考査等	実技テスト等			作品や課題
						主体的に 学習に取 組む態度	作品や課題	課題やレポート			授業での活動
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度								
	◎	○	○								
第1学期	評価規準	生活を主体的に営むために必要な保育、衣・食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	保育、衣・食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。							

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	<p>ホームプロジェクト発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームプロジェクトの発表を通して、自分の考えを人にわかりやすく伝える方法を学ぶ。</li> </ul> <p>第2章 人生をつくる</p> <p>1 人生をつくる, 2 家族・家庭を見つめる, 3 これからの家庭生活と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きや社会制度としての家族や家族と法律を理解する。</li> <li>誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解し、どのような社会を実現すればよいか考えて実践しようとする。</li> </ul> <p>第6章 食生活をつくる</p> <p>5 調理の基礎、調理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。</li> <li>家庭経営の立場から、家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。</li> <li>配膳やマナーに関心を持つ。</li> <li>防災食を通じて、自助・共助・公助についての意識を高める。</li> </ul>			知識 技能	定期考査等
					作品や課題
				課題やレポート	
				授業での活動	
思考 判断 表現	定期考査等				
	作品や課題				
課題やレポート					
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題				
	課題やレポート				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期 期末 考査 まで	<p>第6章 食生活をつくる 5調理の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。</li> <li>SDGsの視点から献立作成をし、環境に配慮した消費者行動について理解する。</li> </ul> <p>第8章 住生活をつくる</p> <p>1住生活の変遷と住居の機能, 2安全で快適な住生活の計画, 3住生活の文化と知恵, 4これからの住生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。</li> <li>自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適で健康で安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</li> <li>日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。</li> <li>持続可能な住居や、防災・減災、福祉の面での自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。</li> </ul>			知識 ・ 技能	定期考査等
					実技テスト等
				作品や課題	
				授業での活動	
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
作品や課題					
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題				
	課題やレポート				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ◎	
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要なライフプラン、食生活、住生活や防災、環境分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	ライフプラン、食生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
学年 末 考査 まで	<p>第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する</p> <p>1生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。</li> <li>一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。</li> <li>人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。</li> <li>これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。</li> </ul>			知識 技能	定期考査等
					作品や課題
				課題やレポート	
				授業での活動	
思考 判断 表現	定期考査等				
	作品や課題				
課題やレポート					
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題				
	課題やレポート				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ◎	
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な人の一生、家庭科に関する基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	人の一生、自分の生活に関わる事柄について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	商業科	類型			
教科	商業	科目	ビジネス基礎	単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	ビジネス基礎 (実教出版)		補助教材等	ビジネス基礎 準拠問題集 (実教出版) 全商ビジネス計算実務検定演習2・3級			
科目の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおりで育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>						
観点別評価	観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	<p>ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。</p>	<p>ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。</p>	<p>ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。</p>			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評 価 の 手 段		
第 1 学期 中間 考查 まで	<p>1章 商業の学習とビジネス</p> <p>1 いざ、ビジネスの世界へ</p> <p>①ビジネスの世界で活躍</p> <p>②ビジネスに必要な心構え</p> <p>③しっかり楽しく学んでいこう</p> <p>2 私たちの社会とビジネス</p> <p>①私たちの生活とビジネス</p> <p>②社会を支えるビジネス</p> <p>③産業構造の変化とビジネス</p> <p>④情報化とビジネス</p> <p>⑤グローバル化とビジネス</p> <p>⑥社会の課題とビジネス</p> <p>(ねらい) 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの役割など商業の学習とビジネスに関する知識などを基盤として、商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について自らの考えをもつとともに、ビジネスの展開についての意識と意欲を高め、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。</p>			知識 技術	定期考查等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考查等		
課題やレポート							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	振り返りシート等						
第 1 学期 期末 考查 まで	<p>2章 ビジネスとコミュニケーション</p> <p>1 コミュニケーション</p> <p>2 ビジスマナー</p> <p>3 情報の入手と活用</p> <p>(ねらい) 信頼関係の構築、コミュニケーションなどビジネスに対する心構えに関する知識、技術などを基盤として、信頼関係の構築がビジネスに及ぼす影響など科学的な根拠に基づいて、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。</p> <p>3章 経済と流通の基礎</p> <p>1 経済の仕組みとビジネス</p> <p>2 経済活動と流通</p> <p>(ねらい) 経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識などを基盤として、経済と流通の動向など科学的な根拠に基づいて、流通と流通を支える活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。</p> <p>4章 さまざまなビジネス</p> <p>1 ビジネスの種類</p> <p>2 小売業</p> <p>3 卸売業</p> <p>4 物流業</p>			知識 ・ 技術	定期考查等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考查等		
課題やレポート							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	振り返りシート等						
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
	評価規準	<p>・商業の学習及びビジネスの概要について理解することができている。</p> <p>・ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。</p>	<p>・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができる。</p> <p>・ビジネスの場を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善することができる。</p> <p>・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。</p>	<p>・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p> <p>・ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p> <p>・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	4章 さまざまなビジネス 5 金融業 6 情報通信業 (ねらい) 卸売業と小売業の分類と機能及び小売業の業態の変化について理解を深めさせる。また、物流活動、金融及び保険の働きや仕組みについても考えさせる。 5章 企業活動の基礎 1 ビジネスと企業 2 マーケティングの重要性 3 資金調達 4 財務諸表の役割 5 企業活動と税 6 雇用 (ねらい) 企業の形態と組織、マーケティングの重要性と流れビジネス基礎など企業活動に関する知識などを基盤として、企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。	知識 技術	定期考査等	課題やレポート	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
第2学期 期末 考查まで	6章 ビジネスと売買取引 1 売買取引の手順 2 代金決済  7章 ビジネス計算 1 ビジネス計算の基礎 2 ビジネス計算の応用 (ねらい) 売買取引、代金決済など取引とビジネス計算に関する知識、技術などを基盤として、実務における取引とビジネス計算の方法など科学的な根拠に基づいて、契約の締結と履行について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。  問題演習	知識 ・ 技術	定期考査等	課題やレポート	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・取引とビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。 ・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。	・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に主体的かつ協動的に取り組むことができる。 ・取引とビジネス計算について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	
学年 末 考 査 ま で	問題演習  8章 身近な地域のビジネス 1 さまざまな地域の魅力と課題 2 地域ビジネスの動向 (ねらい) 身近な地域のビジネスに関する知識などを基盤として、地域のビジネスを取り巻く環境など科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。  問題演習	知識 技術	定期考査等	課題やレポート	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。 ・身近な地域のビジネスについて理解することができる。	・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案して実施し、評価・改善することができる。	・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協動的に取り組むことができる。 ・身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	3年	学科	商業科	類型	共通			
教科	商業	科目	課題研究		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書		補助教材等						
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
観点別評価	観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	○	○	◎				
	評価規準	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第1学期 中間 考查まで	1. オリエンテーション 2. 課題設定 ※ 3. 仮説の構築  ※ 下記の3つのテーマに沿って課題を設定し、課題解決を図る学習を行う。 テーマ1 「経済・社会・商業に関する知識の研究及び上級学校進学対策」 テーマ2 「エンドユーザコンピューティングに関する専門知識・技術の習得及び研究」 テーマ3 「簿記会計及び商業実務に関する専門知識・技術の習得及び研究」	知識 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		
					課題やレポート	授業での活動		
					課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
第1学期 期末 考查まで	4. 課題解決に向けた調査研究計画の立案  5. 調査研究① ・文献・事例調査 ・フィールドワーク（現地調査、実態調査） ・統計分析調査 ・アンケート調査 ・シミュレーション研究  6. 職業資格取得演習	知識 ・ 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		
					課題やレポート	授業での活動		
					課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
第1学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	評価規準	・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、グループで商業の各分野に関する適切な課題を設定することができる。	・調査内容を分析し、科学的な根拠に基づいて説明することができる。 ・情報を入手して活用し、評価・改善することができる。	・課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	(5. 調査研究①)  (6. 職業資格取得演習)  7. 再仮設の設定  8. 調査研究② 調査研究①に加えて、 ・専門的知見の収集と調査研究内容の比較 ・調査研究内容の再構築			知識 技術	課題やレポート
					授業での活動
				思考 判断 表現	課題やレポート
授業での活動					
第2学期 期末 考査 まで	9. 調査研究レポートの作成 ・ソフトウェア操作 (Word) ・調査研究内容の構成  10. プレゼンテーション ・ソフトウェア操作 (PowerPoint、Googleスライド 等) ・プレゼンテーションの目的 ・効果的なプレゼンテーション  11. クラス内発表会  12. 課題研究発表会 (全体発表)			知識 ・ 技術	課題やレポート
					授業での活動
				作品や課題	
思考 判断 表現	課題やレポート				
	授業での活動				
主体的に 学習に取 り組む 態度	課題やレポート				
	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ○	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ◎	
	評価 規 準	・ビジネス活動におけるレ ポート作成の意義と目的を理解 できる。 ・ビジネス活動におけるプレ ゼンテーションの意義と目的 を理解できる。	・企業活動や公共サービスが 社会に及ぼす影響を踏まえ、 経済社会の動向、ビジネスに 関する理論、データなど科学 的な根拠に基づいて工夫して よりよく解決する力を身に付 ける。	・課題を解決する力の向上を 目指して自ら学び、ビジネス の創造と発展に主体的かつ協 働的に取り組もうとしている。	
学年 末 考査 まで	(6. 職業資格取得演習)			知識 技術	課題やレポート
					授業での活動
				思考 判断 表現	課題やレポート
授業での活動					
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・職業資格を取得する意義や 職業との関係について理解し ている。 ・職業資格を制度化している 目的を理解している。	・自らの進路希望などに応じ て適切な資格や検定に関する 課題を設定できる。 ・専門家を目指した継続的な 学習活動を行っている。	・課題を解決する力の向上を 目指して自ら学び、専門性の 高い職業人になることを目指 して、主体的かつ協働的に取 り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点